要旨

キーワード：スクール・エンゲージメント(SE)　尺度開発　健康　高校生

1. はじめに

スクール・エンゲージメント(SE)は，1980 年代頃から，マイノリティの問題が学校でも顕在化している欧米で，学力向上とドロップアウトの解決のための鍵概念として，研究が進められてきた．また，SE は健康行動との関連も示されており，日本においても同様に SE は高校生の健康な学校生活を支える重要な概念である．しかし，日本ではまだ SE の研究はなされておらず，尺度も存在しない上，学校そのものの捉え方も欧米とは異なる．そこで本研究は，日本語版の包括的な高校生の SE 尺度を開発し，信頼性・妥当性を検討すること，さらに作成した SE 尺度と健康の関連性を明らかにすることを目的とした．

2. 方法

まず，文献検討とグループ・インタビューにより，SE の概念枠組みと操作的定義を作成し，質問項目を生成した．最終的に，行動領域 15 項目，情緒領域 19 項目，認知領域 19 項目で計 53 項目を作成した．次に，この調査項目を用いて，都立高校 2 校の 1，2 年生計 1030 名を対象に質問紙調査を行った．なお，他の調査内容は，基本的特性，基準関連妥当性の検討に用いる変数(主観的成績評価・マスタリー・健康安全行動)，健康指標(身体症状・抑うつ)である．

分析では，SE の因子構造を確定するために，SE を領域ごとに探索的因子分析を行い，確認的因子分析を用いて各測定モデルの適合度を確認した．その後，信頼性を確認したうえで，尺度得点を作成し，基準関連妥当性を検討した．さらに，SE と健康の関連を検討するために，一般化線形モデルによる回帰分析を行った．

3. 結果と考察

行動 SE は学級・行事，学業，課外活動，友人関係の４因子，情緒 SE は学業，学級，学校，課外活動，友人関係の５因子，認知 SE は知識獲得，資質獲得の２因子で構成されていた．構成概念妥当性，基準関連妥当性，信頼性を検討した結果，これらの測定モデルの妥当性と信頼性は概ね良好であった．

SE と身体症状・抑うつの関連では，行動 SE・情緒 SE・認知 SE それぞれと有意な負の関連が見られた．また，男女でその関連性が異なり，男子は行動 SE が，女子は情緒 SE が強く関連していた．さらに，SE の下位尺度と健康の関連を検討すると，行動 SE・情緒 SE では“学業”得点が，認知 SE では“資質獲得”得点が健康とより強い関連を示した．以上のことから，性別や領域によって異なる関連性を示しながら，総じて SE と健康の間に有意な関連があることが明らかになった．よって，高校生活へ意欲的に取り組むことで健康がより増進されることが示され，学校や教員は生徒たちへの健康支援と教育支援を融合して考えていく必要があることが示唆された．

4. 結論

今回開発した尺度は，信頼性・妥当性のある尺度として開発することができ，さらに開発した SE 尺度と健康との関連も確認することができた．しかし，今回開発した尺度は，対象や構造・項目など，不十分な点もあったため，今後も検討を続けていく必要がある．